

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R4.1/10(月) ~ R4.1/16(日)

令和4年第2週

<感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
陽性者数	① 合計 ^{※2}	2569人	522人	-	-
	② 対人口10万人	166.8人	33.9人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	4.92	18.00	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		79%	68%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 ^{※3} （%） = 陽性者数 ÷ 検査件数		26.4%	9.4%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しています。

※3 ⑤陽性率について

自費検査を行う市外の検査機関等で検体が採取された方についても市内医療機関から陽性者の届出がされる事例が多数確認されており、①陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いて算出しています。検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いています。

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>		1/16現在	1/9現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	75人	23人	-	-
	確保病床数	477床	477床	-	-
	病床使用率	15.7%	4.8%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	1人	0人	-	-
	確保病床数	69床	69床	-	-
	病床使用率	1.4%	0.0%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	1785人	367人	-	-
	⑨ 対人口10万人	115.9人	23.8人	20人以上	30人以上

<参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>	1/16現在	1/9現在	-	-
⑩ 入院率 ^{※4} (%) = 入院中の患者÷療養者数 (陽性確定例)	4.2%	6.3%	40%以下	25%以下

※4 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果 (川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載)

	直近1週間 R4.1/10 ~ R4.1/16	前週 R4.1/3 ~ R4.1/9	累計 R3.3/11 ~ R4.1/16
α株 (アルファ)	0件	0件	203件
β株 (ベータ)	0件	0件	0件
γ株 (ガンマ)	0件	0件	0件
δ株 (デルタ)	2件	14件	602件
ο株 (オミクロン)	15件	12件	31件

オミクロン株が検出された場合は、都道府県単位として神奈川県が県内状況を一括して発表を行っているため、ここではこれまではバー(—)表示としてきたところですが、川崎市内でもオミクロン株の増加がみられているため、第2週(今週)より川崎市内のオミクロン株の検出状況についても示すこととしました。なお、ここで記載しているオミクロン株の検出件数は、ゲノム解析によって確定された数です。

<評価>

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、昨年（令和3年:2021年）にみられたいわゆる第5波は、感染の状況は第33週（8月16日～22日）、医療提供体制等の負荷については第34週（8月23日～29日）をピークとして急速に減少、第49週（12月6日～12日）までは減少が続き、第50週より若干の増加傾向となりました。年が明け、令和4年第1週（前週：1月3日～9日）、第2週（今週：1月10日～16日）は、重症者の入院は0～1人程度であるものの、新規陽性者数、全療養者数の増加が目立ってきています。

ステージ分類は、第44週～第46週はステージⅣ、Ⅲのない状況が3週連続し、第47週～第52週は感染経路不明者の割合がステージⅣとステージⅢ解消を繰り返していましたが、その他はステージⅣ、Ⅲのない状況が続いていました。年が明け、令和4年第1週（前週）は、6項目中2項目（検査陽性率、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人）がステージⅢ、6項目中2項目（対人口10万人あたりの新規陽性者数、感染経路不明者の割合）がステージⅣとなりました。第2週（今週）はステージⅢはなく、6項目中4項目（対人口10万人あたりの新規陽性者数、感染経路不明者の割合）に加えて検査陽性率、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人）がステージⅣとなりました。

<感染の状況：直近1週間>

- ① 新規陽性者数は、第33週（8月16日～22日）4308人をピークに減少が進み、第48週8人、第49週7人と昨年で最も低い数値が続きましたが、第50週～第52週に微増、年が明けて第1週（前週）522人、第2週（今週）2569人と急増しました。
- ② 対人口10万人あたりの新規陽性者数も第33週（8月16日～22日）279.7人をピークに減少が進み、第48週・第49週0.5人と今年最も低い数値が続きましたが、第50週～第52週と微増、年が明けて第1週（前週）33.9人、第2週（今週）は166.8人と急増しました。

ステージ分類は第39～52週と14週連続してステージⅣ、Ⅲ解消となっていたが、第1週（前週）、第2週（今週）と2週連続してステージⅣとなりました

- ③ 前週との増加比は、第30週（7月26日～8月1日）2.32をピークに減少が進み、第48週0.40、第49週は0.88でしたが、第50週～第52週と微増、年が明けて第1週（前週）18.0と増加、第2週（今週）は4.92と数的には減少しました。
- ④ 感染経路不明者の割合は、第33週（8月16日～22日）の81%をピークに減少に転じ、第41週に47%となりステージⅢ解消となりました。第42週～第52週はステージⅢ解消～ステージⅣを前後し、その後第51週～第2週（今週）と3週続けてステージⅣとなっています。
- ⑤ 検査陽性率は、算定方法を34週から変更しており（表の説明※3）そのため連続性が失われますが、第32週の42.9%をピークに減少に向かい、第48週、第49週は0.2%でした。第50週～第52週は微増し、年が明けて第1週（前週）9.4%、第2週（今週）26.4%と急増しました。

ステージ分類では第38週まではステージⅣでしたが、第39～第52週（前週）は14週連続してステージⅢ解消となっていました。第1週（前週）は9.4%と上昇したためステージⅢとなり、第2週（今週）はさらに26.4%と上昇したためステージⅣとなりました。

<医療提供体制等の負荷：報告日1.15現在>

- ⑥ 入院中の患者数は、第34週（8月23日～29日）286人をピークに減少が進み、第49週2人から第50週5人→14人→16人、そして年が明け第1週（前週）23人、第2週（今週）75人と増加しています。

確保病床数は現在477床となっており、第52週3.4%から、第1週（前週）4.8%と若干増加、第2週（今週）は15.7%と増加しています。ステージ分類では第39～52週、そして第1

週（前週）、第2週（今週）と16週連続してステージⅢ解消となっており、病床としては比較的落ち着いている状態が続いています。

- ⑦ 重症入院患者数は第34週（8月23日～29日）68人をピークに減少が進み、第47週～第52週は0～1人を前後し、今年に入っても第1週（前週）0人、第2週（今週）1人となっています。重症者の確保病床は現在69床となっており、第47週～第2週は0%～1.4%を繰り返しています。ステージ分類では第39週～第2週（今週）と16週連続してステージⅢ解消となっており、重症病床としては落ち着いている状態が続いています。
- ⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、第33週4143人をピークとして減少が進み、第49週は8人となりましたが、第50週～第52週と微増が続き、年が明け第1週367人、第2週（今週）1785人と急増しています。
- ⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人は、第33週269.0人をピークに減少が進み、第48週0.8人、第49週0.5人となりましたが、第50週～第52週に微増、年が明け第1週23.8人、第2週115.9人と急増しています。ステージ分類は、第39～52週の14週連続してステージⅢ解消となっていました。第1週（前週）はステージⅢ、第2週（今週）はステージⅣとなりました。

<変異ウイルス検出状況>

今週はデルタ株が2件追加となり、令和3年3月11日～令和4年1月9日までにゲノム解析で判明したデルタ株累計は602件となっています。

新たな変異株（オミクロン株：o）が海外で急増し、国内でも海外感染例のみならず国内で感染したと思われる例も地域によっては急増しています。オミクロン株の公表は、都道府県単位として神奈川県が県内状況を一括して発表を行っているため、ここではこれまではバー（—）表示としてきましたが、本市内でもオミクロン株の増加がみられているため、第2週（今週）より本市内の状況を示すこととしました。なお、ここで記載しているオミクロン株の検出件数は、ゲノム解析によって確定された数で、第1週（前週）は12件、第2週（今週）は15件で、令和3年3月11日～令和4年1月16日の累計は31件となっています。

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、新規陽性者数は第48週・第49週は今年の最低値となりましたが、第50～第52週の微増傾向から年が明け第1週（前週）・第2週（今週）（1月3日～9日）は急増しました。重症患者は0～1人が続いているものの、入院中患者数、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数の増加が目立ってきています。新規陽性者数の増加に対し、入院患者数、ことに重症患者数は少なく、病床としては比較的落ち着いている状況ではありますが、ステージ分類では6項目中4項目（対人口10万人あたりの新規陽性者数、感染経路不明者の割合に加えて検査陽性率、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人）がステージⅣとなりました。

これまでの国内外の報告ではオミクロン株感染者は軽症者が多いということは良いニュースであり、本市でも重症者数は極めて少数となっていますが、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数の増加が目立ってきています。感染の広がりスピードが速く、急速な感染者数の増加は一般生活に影響を及ぼし、また低い割合であっても感染者の急増に伴って重症者の増加する可能性について危惧されているところです。若干の数値の増加で大きな不安感を持つ必要はありませんが、一方で注意が緩みすぎてしまい安心が油断とならないよう、リスクの高い行動には気を付けながら、日常生活がさらに回復し、それが維持できるよう、引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

外での飲食やお出かけになる時には、感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、家族単位などの少人数でゆっくりと過ごされるようお願いいたします。厳しい冬の気候が続いていますが、換気は感染予防に重要です。「時々空気を入れ替える」ということもお忘れなくお願いいたします。